

読 書 会

科目責任者：北 村 聖（教育支援センター）

I. 前 文

「患者に寄り添う良医」という言葉を見たときに具体的にどのような医師像を思い浮かべるだろうか。本選択科目では患者から信頼される医療人を目指し、日々の研鑽に励むときに明確にイメージすることの難しい「良い医者」とは何かを様々な本を読むことで考察する。患者をケアするということ、死にゆく患者への向き合い方、正解のない問いなどを考える過程で、医師のプロフェッショナルリズムの涵養することを目的とする。

II. 受入可能人数

原則人数は制限しないが、20名程度を考えている

III. 担当教員

特任教授 北 村 聖（教育支援センター）

IV. 学習内容

課題本の内容についてディスカッションやグループワークを通じて、学生自身が主体となって考えてもらい、意見交換をすることで、読書した内容の理解を深めていく。

通常は1ヶ月に1回程度で実施し、日程等は本選択科目を選んだ学生諸君と調整する。

V. 学修の到達目標

社会人として求められる高い倫理観と教養を持つことを目指す。

VI. 成績評価の方法・基準

受講態度等を形式的に評価するとともに、読書内容に関連したレポート課題で総括的な評価をする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

必要に応じてその都度紹介する。

VIII. 質問への対応方法

教育支援センター地域医療教育部門（メール：commed@dokkyomed.ac.jp）に連絡すること。

適宜、対応する。

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間 *（ ）内はそれに必要な時間の目安

事前学習は図書館も利用しながら、許す範囲で購読し、読書の習慣を身につける。(30分)

事後学習は各回の議論の内容を咀嚼して、もう一度課題本に立ち返り、各自の人生航路の糧とする。(30分)

X. コアカリ記号・番号（平成28年度版）

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

A-1-2) 患者中心の視点

A-2-1) 課題探求・解決能力

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

課題本の内容および各回のディスカッションの内容を踏まえたレポート課題への添削/コメントを通じてフィード

バックとする。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○